



学び・究め・貢献する岐阜大学
ひだでステップ × ひだにプラス

岐阜大学フェア

in 高山

実施報告書



岐阜大学／岐阜大学フェア in 高山実行委員会・岐阜大学地域協学センター
平成 28 年 11 月

Contents

I 実施概要 3

- ・ 岐阜大学フェアについて
- ・ 開催期間
- ・ 開催場所
- ・ 主催及び運営
- ・ 共催
- ・ 後援
- ・ プログラム構成
- ・ 来場者数
- ・ 本学関係者の参加



II 実施内容 4-14

- ・ 特別講演及び自由交流会
特別講演「貧困の国でマトマイニ（希望）を育てる～ケニアにおける草の根の活動～」
- ・ ぎふフューチャーセンター
- ・ 岐阜大学フェア in 高山・第33回岐阜シンポジウム
飛騨地域三市一村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション
- ・ 体験学習・模擬講義
- ・ 学生参加企画
- ・ 大学の活動紹介及び飛騨地域の自治体の紹介
- ・ 地域志向学プロジェクト研究成果報告

III 広報活動 15

IV 来場者アンケート結果 16-19

V 事業を終えて 20

資料 21-23

- ・ 各年度の岐阜大学フェア概要
- ・ 学生発表ポスター



I 実施概要

◆岐阜大学フェアについて

岐阜大学は、事業協働機関（中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜経済大学（協力校）、岐阜県、岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ）と連携して平成 27 年度に COC + 事業を獲得しました。これにより、一層地域定着（地元定着）を意識した取り組みを行い、地域活性化を図っていくため、高山市において、地元高校生の本学入学（地元進学）を促進することを目標とし、高校生とその保護者を主な対象とした大学の魅力発信事業である「ひだでステップ・ひだにプラス 岐阜大学フェア in 高山」を実施しました。

◆開催期間 平成 28 年 11 月 12 日（土）10：00～17：00

13 日（日）9：30～14：00

◆開催場所 飛騨・世界生活文化センター（岐阜県高山市千鳥町 900-1）

◆主催及び運営 岐阜大学 / 岐阜大学フェア in 高山実行委員会、岐阜大学地域協学センター

◆共催 岐阜大学教育学部同窓会、岐阜大学地域科学部同窓会森の会、岐阜大学医学部同窓会、岐阜大学工業倶楽部、岐阜大学各務同窓会

◆後援 岐阜県、高山市、飛騨市、下呂市、白川村、岐阜県教育委員会、高山市教育委員会、飛騨市教育委員会、下呂市教育委員会、白川村教育委員会

◆プログラム構成

- (1) 特別講演及び自由交流会
「貧困の国でマトマイニ（希望）を育てる～ケニアにおける草の根の活動～」
講師 NPO 団体 Save the Children Centre 代表及びマトマイニ孤児院 院長 菊本照子氏
- (2) ぎふフューチャーセンター「市民と学生が、岐阜大学と地域のつながりについて考える」
- (3) 第 33 回岐阜シンポジウム
飛騨地域三市一村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション
「飛騨地域と岐阜大学のつながりと連携のあり方」
- (4) 体験学習・模擬講義
- (5) 学生参加企画
- (6) 大学の活動紹介、飛騨地域の自治体の紹介
- (7) 地域志向学プロジェクト研究成果報告

◆来場者数 約 700 人（のべ人数）うち受付人数は下記のとおり

	高山市内	高山市以外の 飛騨地域	それ以外の 岐阜県内	岐阜県外	不明	合計
高校生	208	72	5	1	0	286
中学生	6	1	0	1	0	8
小学生	46	4	0	0	0	50
大学生	1	0	1	0	0	2
学校教員	20	1	1	0	0	22
行政関係	21	7	0	0	0	28
一般	104	25	4	7	1	141
合計	406	110	11	9	1	537

◆本学関係者の参加 学生 169 人、教職員 95 人

Ⅱ 実施内容

◆ 特別講演及び自由交流会

特別講演「貧困の国でマトマイニ（希望）を育てる～ケニアにおける草の根の活動～」

日 時：11月12日（土）10：30～11：30

会 場：飛騨・世界生活文化センター ミニシアター

概 要：講師は、これまでケニアの日本大使館現地採用職員として働く一方で、都市スラムの子どもやシングルマザーの支援と救済活動に取り組み、フェルトアニマルの制作・販売を通じて、貧困層の救済だけでなく就業機会の創出に努めてきた。特別講演では、これまでのケニアにおける活動について紹介があり、貴重な話を聞く機会となった。



講師
NPO 団体 Save the Children
Centre 代表及びマトマイニ孤児院院長
菊本 照子氏

実施結果：参加者約 60 人

◆ 菊本照子氏との自由交流会

日 時：11月13日（日）13：20～14：20

会 場：飛騨・世界生活文化センター ミニシアター

概 要：菊本氏と来場者が自由に交流する交流会を設け、氏のこれまでの活動や、ケニアの様子などについての説明があり、高校生や地域の方との交流を深めることができた。



◆ ぎふフューチャーセンター

日 時：11月12日（土）15：30～17：00

会 場：飛騨・世界生活文化センター 大会議室

目的

岐阜大学は岐阜県内唯一の国立大学として、また地域の地（知）の拠点として、今後一層、市民や地域（自治体も含む）とのつながりを強めながら、地域社会に貢献していかなければならない。地域における大学のあり方が変わっていく中で、将来岐阜大学は、どのような役割を担っていくか、また、市民や地域がどのような大学を求めているかについて、飛騨地域の人たち（高校生、市民、自治体職員等）と岐阜大学生が対話、意見交換をすることで、地域のニーズを洗い出すとともに、将来の岐阜大学像を探ることを目的とする。また、今回のフューチャーセンターで出された意見を岐阜大学フェアの2日目に予定されている飛騨地域3市1村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション（「岐阜シンポジウム」として開催）の1テーマとして取り上げ、市民と大学生の意見を自治体の首長や学長がそれぞれのリーダーの目線から議論する。



テーマ

「市民と学生が、岐阜大学と地域のつながりについて考える～次世代を担う若者に向けて～」

- ①現在の岐阜大学のイメージ
- ②地域が岐阜大学に期待すること（大学や学生に期待されていると思うこと）
- ③市民・地域と岐阜大学とのつながりとは～次世代を担う若者に向けて～

内容

今回のぎふフューチャーセンターは、岐阜大学フェア in 高山にあわせて、高山市を中心とした飛騨地域の自治体との共同で「市民と学生が、岐阜大学と地域のつながりについて考える～次世代を担う若者に向けて～」をテーマに開催した。飛騨地域の斐太高校や高山西高校の生徒、飛騨地域の4自治体（高山市、飛騨市、下呂市、白川村）の職員、岐阜大学生が参加し、次世代を担う若者の視点に立ち、飛騨地域と岐阜大学の未来に向けたつながりや連携のあり方について語り合った。

参加者からは、「（岐阜大学生と地域の）交流の場を増やしてほしい」や「（大学生や研究者等による）地域資源の発見と活用」などの意見が出され、飛騨地域にとって地理的な距離がある岐阜大学と様々なかたちで接点を持つことや「場」を作ってほしいという要望があることを改めて相互に確認することができた。今回出された意見やアイデアは、11月13日に開催された「飛騨地域三市一村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション」で参加した斐太高校の生徒の2人が代表してパネリストである首長や学長に向けて発表し、今後の飛騨地域と岐阜大学のつながりを会場全体で考える貴重な機会となった。

参加者の構成と人数

参加者合計 24 人（6 人・4 グループ）

内訳：高校生 11 人（斐太高校 6 人、高山西高校 5 人）

岐阜大学生 5 人

自治体職員 8 人（高山市 3 人、飛騨市 2 人、下呂市 2 人、白川村 1 人）

対話の方法

KJ 法 6 人 / 4 グループ

ファシリテーター 地域協学センター長
益川 浩一（教授）



グループ発表 ※要約

（1 グループ）

「（岐阜大学生と地域の）交流の場を増やしてほしい」

⇒岐大 week の設置、大学の講義が聞きたい、留学生との交流など

「（岐阜大学が）一緒にまちづくりに取り組んでほしい」

「飛騨地域で活躍する人材育成」、「岐大生を県内で働かせてほしい」

（2 グループ）

「（大学生や研究者等による）地域資源の発見と活用」：眠っている観光資源の活用、森林資源の活用

（⇒林業従事者の活躍の場の創出）

「大学生と交流する機会を作ってほしい」

（3 グループ）

「地域と大学生との関わりの創出（語る機会、共同での取り組み）」（若者がかけ橋となる）

⇒国際関連：観光促進（大学と共同するボランティア活動、ガイドなど）

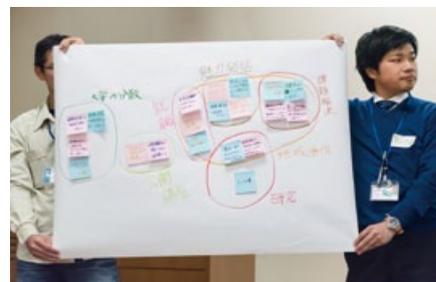
「地域理解」（もう少し地域問題に目を向けて行く）

⇒高齢化、地域活性化（眠っている資源の掘り出し）

（4 グループ）

「岐阜大学医学等の地域枠入試をなくさないでほしい」

「飛騨地域に 4 年制大学を作ってほしい」



当日のスケジュール

1. FC の説明・趣旨説明（10 分）
2. アイスブレイク（グループ内の自己紹介等）と①現在の岐阜大学のイメージ（15 分）
3. ②地域が岐阜大学に期待すること（大学や学生に期待されていると思うこと）（40 分）
4. まとめ③市民・地域と岐阜大学とのつながりとは～次世代を担う若者に向けて～（15 分）
5. 発表（20 分）

今後の展開（岐阜大フェア in 高山・パネルディスカッションの様子）

○今回出された意見やアイデアは、11月13日に開催された「飛騨地域三市一村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション」で参加した斐太高校の生徒2人が代表してパネリストである首長や学長に向けて情報提供を行った。

〈斐太高校の生徒（2人）からの話題提供〉

○岐阜大学生や留学生と交流する機会を増やすことが重要である。

提案のメリットとして、県内外の人が行き交うことで情報の循環が生まれ、多くの人に来てもらえる。また、地元の高校生などが岐阜大学生と交流することで、岐阜大学の情報発信につながる。例えば、飛騨地域での「岐大ウィーク」を設定するなど。

○飛騨地域の良さや長所を生かしたまちづくりをしてほしい。地域の良さを情報発信し、県外の人たちを呼び込むだけでなく、企業の誘致などの雇用創出につながるのではないかと考える。

○若者の目線からは、進学だけでなく仕事や子育ても含めて、長期的な視点から将来安定した進路を確保してほしい。

〈パネリストからの回答〉

（森脇学長）

○飛騨地区、3市1村で拠点を構築することで、様々な大学の活動や取り組みが実施できる（各大学の活動週間など特色を持った取組み）。

（高山市長）

○大学連携センターを設置し、情報発信だけでなく、地元の若者などの相談により、コーディネートできるようにする必要がある。また、観光においては、観光客からも様々な情報を提供してもらい、地域に還元できる仕組みが考えられる。

（飛騨市長）

○大学のリソースや情報を地域が持てるようになり、地元の高校生が活用し自分自身の進路に役に立てるように、大学のコンソーシアムや3市1村による拠点（大学連携センター）が必要である。

（白川村長）

○若者の発想で、未利用の地域資源を活用できるようにしてほしい。

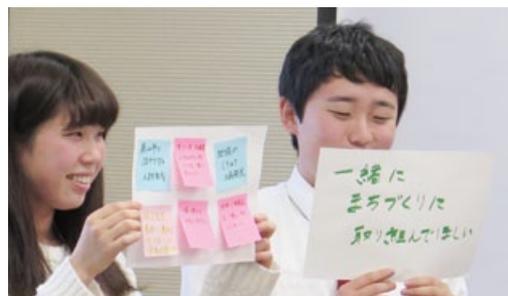
〈岐阜大学1年生（「フューチャーセンター入門」受講生）からの質問〉

○若者に向けて地域の良さ、職業の良さを発信することが重要である。地方と都市部のアクセスが改善されることが、地元定着には必要ではないか。

〈パネリストからの回答〉

（下呂市長）

○意見を参考にさせてもらう。



◆ 岐阜大学フェア in 高山・第33回岐阜シンポジウム
飛騨地域三市一村の首長と岐阜大学長によるパネルディスカッション

日 時：11月13日（日）11：30～13：00

会 場：飛騨・世界生活文化センター ミニシアター

テ ー マ 「飛騨地域と岐阜大学のつながりと連携のあり方～次世代を担う若者に～」

パネリスト 森脇 久隆 岐阜大学長
國島 芳明 高山市長
都竹 淳也 飛騨市長
服部 秀洋 下呂市長
成原 茂 白川村長

ファシリテーター 福士 秀人 理事・副学長



参加者 飛騨地域の高校生・地域住民・自治体職員、岐阜大学教職員・学生等

概要

岐阜大学は岐阜県内唯一の国立大学として、また地域の地（知）の拠点として、今後一層、市民や地域（自治体も含む）とのつながりを強めながら、地域社会に貢献していかなければならない。地域における大学のあり方が変わっていく中で、将来岐阜大学は、どのような役割を担っていくか、また、市民や地域がどのような大学を求めているかについて3市1村の首長と岐阜大学長が話し合い、飛騨地域と岐阜大学がともに目指す将来の連携のあり方を明確にするとともに、一層の連携強化につなげることを目的とし、さらに、会場の地域住民・高校生からの話題提供に対して、それぞれのリーダーが意見や考えを会場に返すことで、地域住民とリーダーとの対話を創出することも目的の1つとして開催した。

当日は、飛騨地域の高校生、地域住民、自治体職員のほか、岐阜大学教職員・学生が参加し、定員100人会場が満席となり、立ち見の参加者もあった。同パネルディスカッションは、「飛騨地域と岐阜大学のつながりと連携のあり方～次世代を担う若者に～」をテーマとして下記のような話題を設定しパネリスト同士の意見交換と会場との対話がなされた。特に、市民からの声として、前日（11/12）に実施した「ぎふフューチャーセンター」に参加した斐太高校生が代表して出された意見や提案をパネリストに投げかけられるなど、高校生や大学生と各リーダーとの率直な意見交換がなされた。

〈話題〉

話題①（現状と課題）：大学と自治体（地域）の連携状況（現状）と課題

話題②（未来）：次世代を担う若者にとっての地域と大学とのつながりと連携のあり方

話題③（市民の声）：会場の市民や高校生からの質問や話題提供

(森脇学長)

- 大学の第3期中期計画のなかで地域活性化の中核拠点を目指しており、地域ごとの構造を十分に理解して、大学が地域と連携して地域づくりに貢献していく。特にブランド力が高い飛騨地域から多く学ぶとともに、一緒に連携を深めていきたい。



(高山市長)

- 大学と地域は、一方的にあたるのではなく、双方がウィンウィンの関係でならなければならない。包括連携協定締結後、7年間の職員を派遣するとともに、大学に高山市のフィールド（文化財の保全、コミュニティ活動等）を提供することが貢献である。一方で、これまでは、一部署の業務であった大学との連携を専門に考える「大学連携センター」のような部署、サテライトキャンパスが必要であり、課題と考えている。



(飛騨市長)

- 岐阜大学との連携は、飛騨市にとっても大きな課題であり、包括連携協定が必要と考えている。これまで岐阜大学との個別的な取り組みも多くは見られず、地域住民との連携のもと体系立った取組み、市役所内の受入れの体制整備を踏まえた大学との連携が必要であり、課題でもあり、まずは目的や目標があってこそその大学との連携とならなければならない。



(下呂市長)

- 岐阜大学とは、萩原の演習林があり、長い間連携をしてきた。医師不足やへき地医療が大きな課題であり、岐阜大学の支援を期待したい。岐阜大学との包括連携協定を目指して、包括的な活動を進めていきたい。



(白川村)

- これまで、個別的に岐阜大学を含めて大学との連携はあったが、市役所の担当レベルでの連携であって包括的な連携がなく、今後包括的な連携体制の構築が必要である。また、学生がフィールドワークや調査の継続性がないのが課題であり、継続的に学生が地域と関わる仕組みを作ってほしい。



会場の市民や高校生からの質問や話題提供

(高山西高校1年生からの質問・提案)

質問：

- 将来の進路や職業を考えるうえで、岐阜大学の各学部の特徴や特色が高校生にも分かりやすく情報を発信してもらえると嬉しい。

回答：(森脇学長)

- 飛騨地域に対する情報発信は不十分であったため、今回の岐阜大学フェアを高山市で開催した。特に医学部では、ヒューマン・トゥ・ヒューマンを重視した医学教育が特徴であり、卒業して一番早く現場で活躍できる全人的医師の育成を目指している。



(斐太高校2年生2人：前日(11/12)開催のぎふフューチャーセンターに参加)

提案：

- 岐阜大学生や留学生と交流する機会を増やすことが重要である。
提案のメリットとして、県内外の人が行き交うことで情報の循環が生まれ、多くの人に来てもらえる。また、地元の高校生などが岐阜大学生と交流することで、岐阜大学の情報発信につながる。例えば、飛騨地域での「岐大ウィーク」を設定するなど。
- 飛騨地域の良さや長所を生かしたまちづくりをしてほしい。地域の良さを情報発信し、県外の人たちを呼び込むだけでなく、企業の誘致などの雇用創出につながるのではないかと考える。
- 若者の目線からは、進学だけでなく仕事や子育ても含めて、長期的な視点から将来安定した進路を確保してほしい。



回答：

(森脇学長)

- 飛騨地区、3市1村で拠点を構築することで、様々な大学の活動や取り組みが実施できる(各大学の活動週間など特色を持った取組み)。

(高山市長)

- 大学連携センターを設置し、情報発信だけでなく、地元の若者などの相談により、コーディネートできるようにする必要がある。また、観光においては、観光客からも様々な情報を提供してもらい、地域に還元できる仕組みが考えられる。

(飛騨市長)

- 大学のリソースや情報を地域が持てるようになり、地元の高校生が活用し自分自身の進路に役に立てるように、大学のコンソーシアムや3市1村による拠点(大学連携センター)が必要である。

(白川村長)

- 若者の発想で、未利用の地域資源を活用できるようにしてほしい。

〈岐阜大学1年生(「フューチャーセンター入門」受講生)からの質問〉

- 若者に向けて地域の良さ、職業の良さを発信することが重要である。地方と都市部のアクセスが改善されることが、地元定着には必要ではないか。

〈パネリストからの回答〉

(下呂市長)

- 意見を参考にさせてもらう。

講評(森脇学長)

- 飛騨地域で岐阜大学だけではなく複数大学でのコンソーシアムの構築、あわせて3市1村のコンソーシアムの構築を実現し、共通のプラットフォームを早く実現することが重要である。
- 地域の良さを発信する方法の1つとして、地元の企業の良さを知るためのインターンシップを展開することが重要であり、そういった取り組みを岐阜大学と岐阜県が中心となり産官学金の連携で開始し、Uターン就職も含めて地元定着を推進する活動を展開している。

◆ 体験学習・模擬講義

日 時：11月12日（土）10：30～15：30
13日（日）10：15～13：00

会 場：飛騨・世界生活文化センター 中会議室及び大会議室

概 要：主に高校生を対象に、普段目にする機会がない大学の授業や実験に参加する機会として、本学の教員が学部の特徴を生かした講義や実験を行い、研究や調査した内容をわかりやすく説明する体験学習・模擬講義を実施した。

体験学習・模擬講義一覧

学部・センター等	題目	実施日	
教育学部	身の回りにおける放射線の不思議に迫る	12日（土）	
工学部	地すべり研究最前線		
地域科学部	言語学概論		
医学部	人を癒す仕事		
地域協学センター	フランスでロケット、缶サットを2000mまで打ち上げるには？		
地域科学部	「地方創生」とまちづくり		
工学部	次世代エネルギー変換技術の基礎		
医学部	患者と医療者のロールプレイ	12日（土）13日（日）	
教育推進・学生支援機構	『大学』を探究する	12日（土）	
応用生物科学部	家畜生産を支えるバイオテクノロジー	13日（日）	
流域圏科学研究センター	高山（たかやま）の森と地球温暖化		
教育学部	人生のリスクにどう備える？		
応用生物科学部	食物繊維に秘められたチカラ		
工学部	人間の意志通りに動かすロボット	12日（土）13日（日） （随時）	
地域協学センター	多面体をつくろう 水ロケット製作教室		
教育学部	(小学生を対象としたワークショップ) あつまれ！こども図工の森 in 高山	「カラフル王国」	12日（土）
		「だん！だん！ダンボール」	13日（日）

実施結果：参加者 292 人（高校生 256、中学生 1、その他 35）

◆ 学生参加企画

日 時：11月12日（土）10：00～17：00
13日（日）9：30～14：00

会 場：飛騨・世界生活文化センター ミニシアター、企画展示室、ウェルカムプラザ、ふれあい広場

概 要：高校生と岐阜大学生が対話を行う学生企画フューチャーセンター、岐阜大学が実施している基盤的能力を育成する学生支援プロジェクトの活動発表、学生が授業等で作成した作品の展示、課外活動を行うサークルや留学生によるパフォーマンス披露等を行い、その活動を見て、聴いて、触れることにより学生と交流する機会を提供することで、高校生や地域の方々に普段接する機会のない大学や大学生を身近に感じてもらう場として実施した。

学生参加企画一覧

団体名	企画名	備考
学生プロジェクトの活動発表 基盤的能力を育成する学生支援プロジェクト	・学生ボラネット① ・岐阜県農産物の創造・発信・振興プロジェクト② ・遺伝子組換え技術を通じた岐阜大学生の活性化③ (iGEM)	パネル 展示
工学研究科人間情報システム工学専攻	自作小型ロケット作成プロジェクトについて④	作品展示
工学部社会基盤工学科	スチールブリッジコンテストへの参加⑤	
教育学部美術教育講座	つくる・えがく展	
フォーミュラレーシング（サークル）	岐阜大学フォーミュラレーシングのマシン展示⑥	
ロボコンサークル（サークル）	ロボットを動かしてみよう！⑦	
「フューチャーセンター入門」受講生	学生企画フューチャーセンター（13日）	体験
ESD クオリア（サークル）	天体観測	
グルメ研究会（サークル）	“手作りスイーツでほっと一息”	
チアリーダー部 Stars（サークル）	“見て見て Stars のチアリーディング”	実演
留学生（インドネシア）	友好・団結の踊り「タリインダン」	
よさこいサークル騒屋（サークル）	よさこい演舞披露	

①～⑦については P22・P23 にて詳しくご紹介します。



◆ 大学の活動紹介及び飛騨地域の自治体の紹介

日 時：11月12日（土）10：00～17：00
13日（日）9：30～14：00

会 場：飛騨・世界生活文化センター 大会議室

○大学の活動紹介

概 要：岐阜大学の5学部の特徴やセンターの活動などについて、パネル等の展示をとおして高校生や地域の方々に紹介し、疑問や質問に答えることにより、岐阜大学をより知ってもらう取組として実施した。また、入試相談コーナーを設け、入試に関する情報の提供を行うとともに様々な質問等に答える場を設けた。

配布資料：岐阜大学概要、学部概要、受験生向け大学案内、募集要項、地域協学センターパンフレット、次世代地域リーダー育成プログラムパンフレットほか

大学の活動紹介一覧

学部・センター等	題目
岐阜大学	岐阜大学ってこんなところ！
教育推進・学生支援機構	岐阜大学でしっかり教養を身につけよう！
教育学部	教育学部の教員養成システム 教育学部入試情報
地域科学部	地域科学部紹介①（学部の特徴） 地域科学部紹介②（地域学実習などの紹介）
医学部	医学部医学科の地域枠入試とキャリア支援 看護学科案内と入試情報
工学部	工学部の紹介 工学部の紹介（PR映像の上映）
応用生物科学部	応用生物科学部紹介 応用生物科学部入試情報
学生支援課	学生生活アラカルト
研究推進・社会連携機構	研究推進・社会連携機構の紹介
次世代エネルギー研究センター	水素社会がやってくる！
次世代金型技術研究センター	次世代金型技術研究センター
地域減災研究センター	清流の国ぎふ防災・減災センター紹介
流域圏科学研究センター	山地から都市域に至る「流域圏」の科学
地域協学センター	「地域にとけこむ大学」を目指して
グローバル推進本部	岐阜大学の国際化
環境対策室	岐阜大学の環境に関する取り組み
男女共同参画推進室	地域循環型女性研究者育成・支援プログラム
入試課	入試相談コーナー

○飛騨地域の自治体の紹介

概 要：飛騨地域の高山市、飛騨市、下呂市、白川村の自治体が若者に向けて取り組んでいる施策や取り組みなどについて、パネル展示をとおして高校生や地域の住民の方々に紹介した。

自治体の紹介一覧

自治体	題目
高山市	若者が学び活躍できるまち高山市
飛騨市	若い力で日本の原風景を守る一種蔵棚田の魅力 PR
下呂市	下呂スタイル魅力発信プロジェクト
白川村	起業を目指すあなたを支援します！

◆ 地域志向学プロジェクト研究成果報告

日 時：11月12日（土）10：00～17：00（成果発表会 10：35～11：55）
 13日（日）9：30～14：00（ク 10：35～11：35）

会 場：飛騨・世界生活文化センター 大会議室

概 要：岐阜大学では、地域の課題解決や新たな問題の発掘などに向けた、分野横断的な「地域志向学プロジェクト」を推進している。今回は平成27年度に採択された14件の研究プロジェクトのポスターを展示するとともに、7名の筆頭研究者による発表を行った。

地域志向学プロジェクト研究成果報告一覧

所属・氏名（※発表）	研究テーマ
医学部・助教 田中健太郎（※13日）	過疎地域における食品購入方法の違いと健康問題との関連分析
教育学部・助教 板倉憲政	郡上市と連携した移住者の適応プロセスに関する検討
地域科学部・准教授 林琢也	合併自治体の総合診断による地方創生プラン策定のための学際的・大学横断的研究—郡上市を中心として—
総合情報メディアセンター・教授 篠田成郎（※12日）	高山市における森林起点型地域社会システムのモデル構築—木質バイオマス利用による地域活性化戦略の検討—
地域科学部・助教 山口未花子	地域文化を生かした野生動物資源の持続可能な利用に関する文理連携型研究
教育学部・准教授 須山知香（※12日）	岐阜大学「絶滅危惧植物データ管理運営チーム」プロジェクト
応用生物科学部・准教授 大屋賢司	岐阜県産豚肉のより安定・安全な供給を目指した衛生管理システムの構築とグローバル生態学創成の可能性
流域圏科学研究センター・教授 景山幸二（※13日）	飛騨ホウレンソウ産地で発生している土壌病害の実態調査
教育学部・助教 久保倫子（※13日）	空き家問題の解決に向けた地域づくりのための地理学的研究
教育学部・准教授 坂本一也	多文化共生コミュニティの現状と課題—外国人の子どもの教育問題を中心に—
教育学部・教授 野村幸弘	円空仏作品目録の作成
工学部・教授 神谷浩二（※12日）	地下水資源を活かしたくらしづくり
応用生物科学部・准教授 高島康弘	人畜共通感染症の観点から見た岐阜県産ジビエの品質保持
応用生物科学部・准教授 高須正規（※12日）	健やかな家畜生産を可能とする「家畜衛生コンソーシアム」の構築

Ⅲ 広報活動

◆チラシ・ポスター等

チラシ、ポスターを作成し、配布及び掲出を行った。また、飛騨地域の自治体及び高等学校については、実行委員会委員の地域協学センター教員等が直接訪問し、事業説明のうえ、参加及び高校生等への周知の依頼を行った。

飛騨地域配付先：

自治体（高山市、飛騨市、下呂市、白川村）

高等学校、中学校、小学校、教育委員会、短期大学、金融機関、商工会議所

その他：

COC + 事業協働機関(中部学院大学、中部大学、日本福祉大学、名古屋学院大学、岐阜経済大学(協力校)、岐阜県岐阜県経営者協会、十六銀行、大垣共立銀行、マイナビ)等

協定自治体（大垣市、各務原市、羽島市、岐阜県、関市、美濃市、岐阜市、高山市、御嵩町、郡上市、美濃加茂市、北方町、中津川市、揖斐川町、岐南町、本巣市、山県市、土岐市、養老町、八百津町（開催時、順不同））及びその他岐阜県内市町村

岐阜県内高等学校、特別支援学校、岐阜県教育委員会、岐阜県内大学、短期大学

◆自治体における広報（広報誌掲載等）

- ・広報たかやま（11月1日号）（高山市・告知）
- ・広報たかやま（12月1日号）（高山市）
- ・広報げろ（11月号）（下呂市・告知）
- ・広報しらかわ（10月号）（白川村・告知）
- ・飛騨市自治会チラシ配布



◆ホームページ

岐阜大学地域協学センターホームページに岐阜大学 in 高山のページを開設



◆メディア掲載など

- ・読売新聞（11月10日・告知）
- ・中日新聞（11月11日・告知）
- ・中日新聞（11月13日）
- ・中日新聞（11月15日）
- ・中日新聞（11月27日・飛騨版）
- ・高山市民時報（11月14日）



パンフレット（表紙・裏表紙）

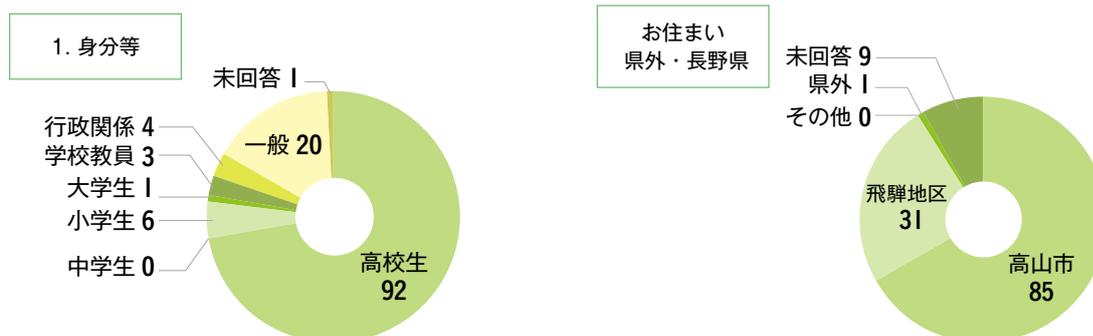
ホームページ

Ⅳ 来場者アンケート結果

来場受付数 537、回答数 127、回収率 24%

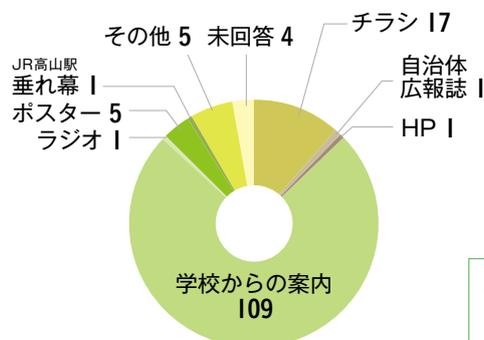
1. あなた自身についてお答えください。(該当するものに○を付けてください。)

- 身分等…高校生・中学生・小学生・大学生・学校教員・行政関係・一般
- お住まい…高山市内・高山市以外の飛騨地域・それ以外の岐阜県内・県外（県）



2. 岐阜大学フェア in 高山について、何でお知りになりましたか。(複数回答)

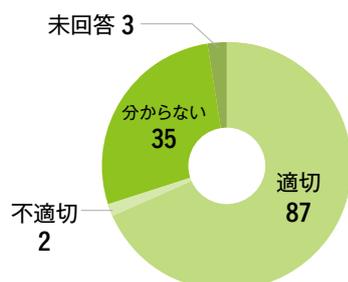
- チラシ
- 自治体広報誌
- HP
- 学校からの案内
- ラジオ
- ポスター
- JR 高山駅垂れ幕
- その他 ()



8. その他の記述内容
・高校 ・新聞 ・小学校からのちらし

3. 開催時期について、適切だと思われますか。

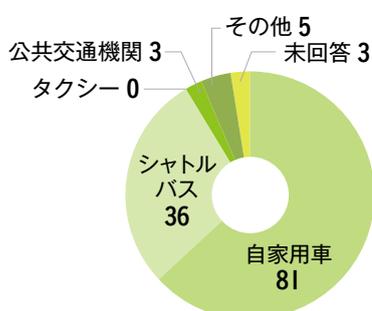
- 適切
- 不適切（適切な時期： 月）
- 分からない



2. 適切な時期の記述内容
・10月 ・8月
1. 記述 1 件
・雪が降る前だから OK, 雪が降ると会場は地元の人も運転がこわいのでこの時期で OK

4. 会場へはどのようにお越しになりましたか。

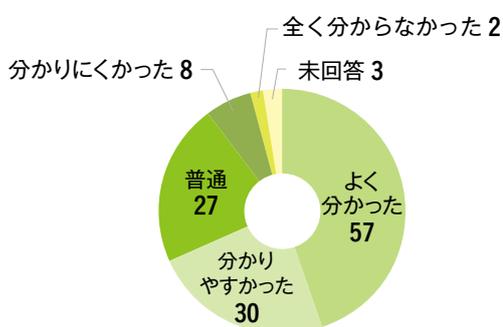
1. 自家用車
2. シャトルバス
3. タクシー
4. 公共交通機関
5. その他 ()



5. その他の記述内容
・自転車 (4件) ・チャリ (1件)

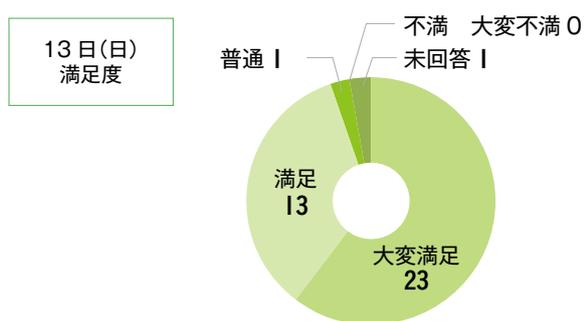
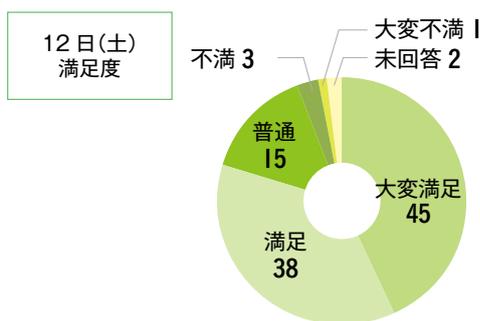
5. 会場での案内は分かりやすかったですか。

1. よく分かった
2. 分かりやすかった
3. 普通
4. 分かりにくかった
5. 全く分からなかった



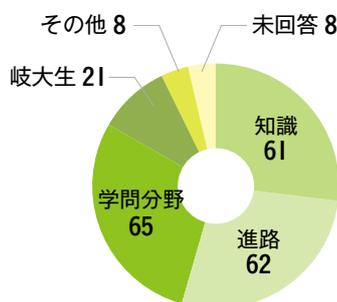
6. 岐阜大学フェア in 高山の満足度についてお答えください。

大変満足・満足・普通・不満・大変不満



7. 岐阜大学フェア in 高山の感想について教えてください。(複数回答)

1. 岐阜大学について知識を深めることができた。
2. 進路を考える上で参考になった。
3. 今まで知らなかった学問分野について知ることができた。
4. 岐阜大学生と話ができて楽しかった。
5. その他



〈その他記述内容〉

- ・入試のことがわかり、岐大のことがわかりとてもよかったです。ぜひまた高山でお願いしたいです。
- ・大学の活動紹介にもっと具体性が欲しかった。説明スタッフが少ない or 誰がスタッフなのかわからない。
- ・学生の方がすごく優しく、企画にさそってくださったりして、すごく楽しかったです。岐大を本気で目指したいと思いました。
- ・シンポジウム とても興味深かったです。勉強になりました。
- ・フューチャーセンターとシンポジウムに参加させていただきましたが、非常に刺激的で様々なことを学ばさせていただきました。ありがとうございました。
- ・遠い岐阜大学が近く感じられて、子供の今後の参考にしたい。

8. どの企画に参加されましたか？該当部分に○を付けてください。

企画		満足度						
12日		大変満足	満足	普通	不満	大変不満	不参加	未回答
		5	4	3	2	1	0	
特別講演 「貧困の国でマトマイニを育てる」	回答数	5	2	0	0	0	30	52
ぎふフューチャーセンター	回答数	2	0	0	0	0	33	54
体験学習・模擬授業	回答数	33	21	7	0	0	10	18
随時体験（多面体・水ロケット）	回答数	4	1	0	0	0	30	54
学生参加企画	回答数	7	2	0	0	0	31	49
大学の活動紹介・入試相談	回答数	3	7	0	0	0	27	46

企画		満足度						
13日		大変満足	満足	普通	不満	大変不満	不参加	未回答
		5	4	3	2	1	0	
パネルディスカッション （岐阜シンポジウム）	回答数	5	3	0	0	0	15	15
自由交流会	回答数	1	1	0	0	0	16	20
体験学習・模擬授業	回答数	14	9	0	0	0	6	9
随時体験（多面体・水ロケット）	回答数	7	0	0	0	0	17	14
学生参加企画	回答数	8	3	0	0	0	13	14
学生企画フューチャーセンター	回答数	0	0	0	0	0	18	20
大学の活動紹介・入試相談	回答数	8	3	1	0	0	11	15

9. 特に印象に残った企画についてご意見・感想等ご自由にご記入ください。

参加企画名	記述内容
模擬授業	講師の方の話は面白くて本当にためになりました。人を癒す仕事についてより深く理解できました。
地すべり研究最前線	分かりやすく、知らない学科について知ることができました。
地すべり研究	社会基盤の研究の為にボーリング調査や金華山のチャートを調べているのが分かりやすかったです。
人をいやす仕事、患者と医療者のロールプレイ	知識面だけでなく、患者さんと医療者の間でのコミュニケーションの大切さを実感できました。
フランスでロケット、缶サットを2000mまで打ち上げるには？	この企画についてはあまり詳しくは知らなかったけれど、宇宙工学を少し理解できたと思うし、缶サットについて様々な工夫をこなし、より性能の高いものを作ろうという向上心がすごく伝わってきました。同じ高校生として、機体製作やプログラミングなど専門的な分野を学びそれを自分の手で検証し、実践し、それをもとに改善していくということをやっていて、すごいと感じました。
特別講演	ケニアって、ビルとかばかりだと思っていました。でも話を聞くとビルがたくさんあると知り、貧富の差があることを知りました。初めて知ることがあって、日本って事件とか（襲撃）があまりないけど、ケニアにはあるし、子どもたちが集団で登校しないと危ないって聞いたとき、驚きました。この講演はとても興味がでてきたし、聞いてよかったって思いました。
特別講演	とても心に響きました。アフリカに貧困としか思っていなかったのですが、幸せであるという事を知りました。また差別もないという事を改めて学び、人は平等だと教えてもらいました。もらった人形も思いが込められたものなので大せつに使います。ありがとうございました。
体験学習：身の回りの「放射線」	文系なので物理はやらないので不安だったけれど、こんなに楽しい授業は初めてというくらい楽しかったです。とても放射線に興味がありました。
人を癒す仕事	大学進学だけでなくその先働く時にどのように仕事に向き合っていくのか考えることができました。ありがとうございました。
体験学習・模擬授業	楽しみながら学習できてよかった。貴重な体験ができてうれしかった。
次世代エネルギー変換技術の基礎	HCCIエンジンの講義が分かりやすく、おもしろかったです。
模擬授業	なかなか体験できないことなので受けることができ、おもしろかったです。
人生のリスクにどう備える	自分の将来をしっかりと考える事が出来良かったです。
だんだんダンボール	子供の自由な発想を学生さん達が上手に生かしサポートしてくれて、とても生き生きした笑顔を見る事が出来ました。
模擬授業	大学でどんな授業をやっているのか、何となくだけイメージが持てたので良かったです。
ロボット	高校とはレベルが違うと思った。難しい言葉が多くてよくわからなかった。
大学の活動紹介	いろいろな先生方がたくさん話して下さって、初めて知ることたくさんあり、とても楽しかった。進路選択の参考になりました。
応用生命実験	気軽に興味を持ちやすい内容から化学の内容へと講義に参加できてわかりやすく楽しかったです。
	ダンスや、インドネシアの歌や踊りがすごく、あこがれました。よさこい(?) かつよかったです!!
	体験授業では難しい話ではあったが、話はすごくためになった。またいろいろな活動についても知ることができて楽しかった。
	受付に入ったときから、大学生の明るい姿に緊張がほぐれた。チアやよさこいなども見れて楽しかったです。
つくるえがく展 よさこいパフォーマンス	大学が楽しいことがよくつたわった。学部ごとの説明、入試の説明、詳しく教えてもらえていってよかった。

10. その他、お気づきの点があればご自由にご記入ください。

保護者の数が少なく場違いかと思った。早い時間にきすぎてまだ準備中だった。講義をひとつ聞いて大変おもしろかった。
夏休みの方が人がきやすいと思います。
岐阜市、名古屋近辺の催し物だと気軽に参加することが地理的条件から難しく、あきらめる事が多いので、今回の高山での開催はとても有り難かったです。
岐大生の方と実際に話すことができ、とても楽しかったです。

V 事業を終えて



岐阜大学 in 高山実行委員会委員長
(地域協学センター副センター長)

佐々木 実

今回の岐阜大学フェアは今までの技術シーズの研究中心の岐阜大学フェアとは異なり、各学部、センター、学生の教育、課外活動、地域との連携における岐阜大学の取り組みなどを高校生とその保護者の方を中心とした地域の方々に紹介することを目的として開催いたしました。その中で、体験学習や模擬講義を中心とした企画には、多数の高校生の参加をいただけ、その評価もまずまずでした。しかし、プログラムが盛りだくさんとなったため、並列開催となり、一部のプログラムに参加者が出ることができないなど今後の開催にあたってはプログラムの構成について一考を要する結果にもなりました。また、会場への出入口が複数あることから、入場者数の把握やアンケートの回収などの問題も残りました。しかしながら、来場者・学生参加企画に参加した学生のアンケートや参加者の意見には今後の参考となる意見もいただくことができましたので、今後の岐阜大学フェアの開催に生かすことができるよう、ここに報告書として纏めさせていただきます。

・来場者のアンケートからは、「岐阜大学について知識を深めることができた。」「進路を考える上で参考になった。」との回答が多くあり、「遠い岐阜大学が近くに感じられて、子供の今後の参考にしたい。」などの回答から、岐阜大学キャンパスを離れて高山市で開催した一定の効果がありました。

・参加者の大半が高山市内の高校生で、模擬講義・体験学習への参加がほとんどでありました。今回高山駅から会場までのシャトルバスを用意しましたが、高山市以外からも含めさらなる集客には交通手段の確保が必要であり、模擬講義・体験学習以外の企画への参加を増やすためには、各企画が大学での学習・生活にどのように結びついているのかなど参加者の関心、ニーズを的確に集める手段を検討する必要性がありました。一方で、土日開催ということで、課外活動に慣れている高校生の多くは保護者が自家用車で送るなどして参加した傾向がありました。

・一方、学生参加企画に参加した学生のアンケートからは、約79%の学生が「参加してよかった」と回答し、約53%「今後も学生参加企画があるとよい」と回答していることから、学生にとっては学生参加企画を岐阜大学フェアに取り入れたことを概ね好意的に受け止めていました。なお、「企画する段階から学生が参加した方がよい」と回答しているものが約25%おり、回答者には、計画どおりにできなかったと感じているものが含まれていることから今後学生参加企画を行う場合には、早い段階から学生が参加することでよりよい企画にすることができると思われます。また、フェアのテーマ設定にもよりますが、岐阜大学フェア自体の企画を学祭実行委員会等の学生団体との共同企画を行うことも将来の視野に入れるべきではないかと考えられました。なお、「キャンパスで開催した方が学生は参加しやすい」との回答が約67%あったことから、毎年遠隔地で開催するには、学生にとっても大学にとっても負担が大きいのと思われました。

・従来と比較し、今年度はコンセプトやターゲットが明確になっていましたが、準備不足であったことも否めず、来年度の開催について、早急に目的・方針を決定する必要があります。また、学外よりも学内への周知や実行委員会の意図が参加者にうまく伝わらずに、一般の参加者との交流の機会がうまく生かされなかったのは、そのような懇談の企画を設定できなかったのは、残念でありました。

以上、総括すると今回の岐阜大学フェアは、岐阜大学キャンパスを離れて高山市で開催した一定の効果がありましたが、今までとは趣の違ったフェアであったため、今後のフェアの在り方も含めて、おおいに参考になる課題も見つかるなど今後につながるフェアとなりました。最後に改めて、この場をお借りして、関係各位・各所へのご協力への感謝と御礼を述べさせていただきます。

資料

◆ 各年度の岐阜大学フェア概要

	テーマ	日時	場所	実施内容
第1回	学び、究め、貢献する岐阜大学 ー進化する知の拠点ー	平成17年 9月30日(金)～ 10月2日(日)	岐阜メモリアル センター (岐阜市)	講演会、シンポジウム、 パネル展示 等
第2回	学び、究め、貢献する岐阜大学 ー輝く未来を地域と共にー	平成21年 10月30日(金)～ 10月31日(土)	岐阜大学	講演会、パネル展示、実験教室、 研究室見学 等
第3回	学び、究め、貢献する岐阜大学 ー地域に根ざし世界に開くー	平成22年 11月5日(金)～ 11月6日(土)	岐阜大学	講演会、シンポジウム、 パネル展示、模擬授業、 研究室見学 等
第4回	学び、究め、貢献する岐阜大学 ー絆を深め未来を築くー	平成23年 11月4日(金)～ 11月5日(土)	岐阜大学	講演会、シンポジウム、 パネル展示、実験教室、 模擬授業、研究室見学 等
第5回	学び、究め、貢献する岐阜大学 ー大学の今を知るー	平成24年 11月2日(金)～ 11月3日(土)	岐阜大学	講演会、シンポジウム、 パネル展示、実験教室、 模擬授業、研究室見学 等
第6回	学び、究め、貢献する岐阜大学 ー地域にとけこむ大学ー	平成25年 11月1日(金)～ 11月2日(土)	岐阜大学	講演会、シンポジウム、 パネル展示、実験教室、 模擬授業、研究室見学 等
第7回	学び、究め、貢献する岐阜大学 ー地×知の拠点ー	平成26年 10月31日(金)～ 11月1日(土)	岐阜大学	講演会、シンポジウム、 パネル展示、実験教室 等
第8回	学び、究め、貢献する岐阜大学 ー地域とともに歩む大学ー	平成27年 10月30日(金)～ 10月31日(土)	岐阜大学	講演会、シンポジウム、 パネル展示、活動紹介、 技術シーズ発表会、実験教室 等
第9回	学び、究め、貢献する岐阜大学 ーひだでステップ×ひだにプラスー	平成28年 11月12日(土)～ 11月13日(日)	飛騨・世界生活 文化センター (高山市)	講演会、シンポジウム、 パネル展示、模擬授業、 学生参加企画、 フューチャーセンター、 研究成果発表 等

◆ 学生発表ポスター

学生ボラネット

私たち学生ボラネットは、岐阜大学生にボランティアを紹介する活動をおこなっています。

私たちが考えるボランティアの良さ

- ・多くの方との出会い
- ・新たな自分・他価値観との出会い

ボランティアツアーについて

初めてボランティアに行く学生は、1人で行くことに不安に思う学生が多いです。そこで、私たちも一緒に参加することで、そのような不安を解消します。ツアーに参加した学生からも「安心して楽しめた」という声があがっています。

フェアトレードデイ 藤井

構内ボランティア(落ち葉清掃)

身近な所で活動の1つとして大学内の清掃活動を行い、そこで他学部や他団体の方との交流を行いました。また、集めた落ち葉を用い焼き芋を行い、普段行う機会のない消火器を用い消火活動を行いました。

他大学交流

交流を通して各大学のボランティアセンターの特徴を知り、改善を行い学生のボランティア活動がより良いものとなるように活動しています。

お茶会

岐阜大学内の芝生の上で飲み物とお菓子を食べながら、ボランティアに関する相談や雑談をします。開いた場所で行うことで、気楽におしゃべりできました。

通信

定期的な通信を作成し、構内に掲載しています。

紹介するために…

- ・ボランティアツアー
- ・出張窓口
- ・構内ボランティア
- ・他大学交流
- ・通信
- ・お茶会

出張窓口

岐阜大学のアカデミックコモンズで、出張窓口をおこなっています。

- ・ボランティアにどんなイメージを持っているか?
- ・こんなボランティアがあればいいな!

などのテーマでワークショップを開催しています。

1-1

学生ボラネットの活用方法

START

- ・何か新しいことをしてみたい
- ・いろいろな人と出たい
- ・友達を増やしたい
- ・就職に使えるかも
- ・ただなんとなく etc...

学生ボラネットに行ってみる

やりたいうこと、情報を見つめる

学生スタッフや「コーディネーター」を探す

実際に活動してみる

人との出会い、色んな発見

企業

NPO

地域の人々

一緒に活動できる仲間

私たち学生スタッフがお話を聞きます! まずは、来てみてください★

学生ボラネットQ&A

Q1. ボランティアは初めてです。何から始めればいいですか?

A1. 窓口に来てくれれば、経験員や学生スタッフがお話を聞き、ボランティアの紹介も行います。

Q2. どのようなボランティアがありますか?

A2. 子育て支援(キヤン、学費支援)、国際協力(フェアトレード)、環境活動(クリーン活動、雑草駆除)、福祉活動(防災活動)など他にも沢山あります。

Q3. 1人で参加するのが不安です…

A3. 年に数回、スタッフもボランティアと一緒に参加する「ボランティアツアー」を企画しますので、ぜひ参加してみてください。

Q4. ボランティアを紹介してくれる窓口はどこにありますか?

A4. 学生会館1F、ラウンジ向かい側のキャリアセンター内に紹介しています。新しい看板と白いホワイトボードが目の前の学生ボラネットまでぜひお越しください!

ボラネット窓口について
〈場所〉 学生会館1F キャリアセンター内
〈活動時間〉 毎週水曜 14:30~16:45 木曜 12:30~16:45

Facebookやっています。検索してね!

Facebook: 学生会館1F キャリアセンター内

QRコード

1-2

岐阜いちごを知ってほしい!

岐阜県農産物の創造・発信・振興プロジェクト 華かがり振興チーム

目的

- 岐阜大学生に向け岐阜いちご「濃姫・美濃娘・華かがり」を認知拡大
- 活動の過程において学生の基盤的能力を向上

活動内容

①岐阜いちごコンテストの開催 7/4~8/5
岐阜いちごのゆるキャラ・スイーツを岐阜大学生から募集した。

②キックオフ会 8/25
説明会 プロジェクトの目的、活動報告、活動計画

一次選考会
生産農家、顧問教授、県職、企業の方と応募作品の選考を行い、4作品を通過作品とした。

ゆるキャラ部門1位 みのりちゃん
スイーツ部門1位 華かがりぱかりアイス

④二次選考会 10/18~10/20
岐阜大学生を対象に一次選考通過作品の投票を行った。

今後の展望

- ▶生産現場体験会 12月
- ▶ワークショップイベント 12月

岐阜いちごの食べ比べ、農家の方による講演、消費者側、生産者側の人が岐阜いちごについて話し合う

- ▶スイーツ試食提供
- ▶メディアとの連携

③試作・試食会 9/2 9/27
一次選考通過作品を発案者と試作した。製作手順、味、見た目、イチゴを生かしているか議論し、改善点が判明した。

協力 岐阜県園芸特産振興会いちご部会、JA全農岐阜、岐阜県農業技術センター、カネ井青果株式会社

2

IGEM Gifu in 岐阜大学フェア

IGEMとは?

IGEM (The International Genetically Engineered Machine) は、合成生物学分野の国際的な、マサチューセッツ工科大学の遺伝子回路をテーマとした世界大会のこと。

合成生物学とは?

合成生物学とは、遺伝子回路と同等の技術を用いて有用な機能をもつ人工生命体をつくることである。

研究

生物体内の働きやシステムを模倣して遺伝子レベルで再現し、遺伝子回路を構築し、その回路を制御する。遺伝子回路の構築は、遺伝子回路の設計と、その回路を実験的に構築することである。

遺伝子回路構築の目的

遺伝子回路の構築は、遺伝子回路の設計と、その回路を実験的に構築することである。

遺伝子回路の設計

遺伝子回路の設計は、遺伝子回路の設計と、その回路を実験的に構築することである。

遺伝子回路の実験

遺伝子回路の実験は、遺伝子回路の設計と、その回路を実験的に構築することである。

遺伝子回路の応用

遺伝子回路の応用は、遺伝子回路の設計と、その回路を実験的に構築することである。

遺伝子回路の未来

遺伝子回路の未来は、遺伝子回路の設計と、その回路を実験的に構築することである。

IGEMでできること

IGEMでは、学生がチームで合成生物学に関する研究に携わることができる。

研究テーマの決定、研究テーマについての調査、モダリティ、実験、発表・考察など、一連の流れを自ら行いながら進んでいく。自分たち自身で考え、論文や発表を準備し、先駆者や先輩から指導を受ける。進んでいる。

研究テーマの決定

研究テーマの決定は、研究テーマの決定と、その回路を実験的に構築することである。

研究テーマの調査

研究テーマの調査は、研究テーマの決定と、その回路を実験的に構築することである。

研究テーマの実験

研究テーマの実験は、研究テーマの決定と、その回路を実験的に構築することである。

研究テーマの発表

研究テーマの発表は、研究テーマの決定と、その回路を実験的に構築することである。

研究テーマの応用

研究テーマの応用は、研究テーマの決定と、その回路を実験的に構築することである。

研究テーマの未来

研究テーマの未来は、研究テーマの決定と、その回路を実験的に構築することである。

3

自作小型ロケット作成プロジェクト

工学研究科人間情報システム工学専攻
工学部機械工学科知能機械コース



概要

2009年から毎年、「モノづくり教育」の一環として、大学の設備内で独自のロケットを作成している。日本では打ち上げられない小型ロケットを製作し、2年後に開催されるフランス大会に参加し、打ち上げる。特色を継ぎ、モノづくりするだけでなく、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力も身に付けていく。

ロケット名

2014年「ロケット」(2013年「飛鳥」)
2015年「ロケット」(2012年「飛鳥」)
2016年「ロケット」

自ら名を付けるために毎年漢字の名前をつけています！



2016年プロジェクトメンバーとロケット撮影



4

Japan Steel Bridge Competition 2016

社会基礎工学科 複合構造研究室

概要

Japan Steel Bridge Competition [JSBC]とは…?
○Steel Bridge Competitionは、米国では既に20年を超える歴史を有する競技大会で、日本では2009年から開催されている。
○鋼橋を設計・製作し、架設速度、橋梁重量、プレゼンテーション、デザイン性、たわみ等を点数化して競う。
JSBC 2016年大会 in 前橋工科大学へ参加しました！

内容

コンセプト
今年までの岐阜大学の橋梁は…
架設の早さを極めた直部材をつなぎ合わせたアーチ
今年はいよいよ、**部材を曲げたアーチ橋に決定！**

設計
アーチ橋の設計計算が難しい…
1. 手計算可能なトラス橋として計算、部材の断面を決定。
2. アーチに置き換えて設計図作成
計算上、H点のたわみは、... **6.4mm!**
アーチに置き換えた設計図がこちら。

製作・本番
美しいアーチを期待したが、その手で合言葉に、人の手で曲げました。
大会当日の載荷競技では、規定以上のたわみが出てしまいました…
今回参加した全20校の学生と、友好を深めることができました！

機体班
計画: ロケットのコンセプト決定(大きさ・色等)
設計: 3Dモデリング(CAD)で設計し、3Dプリンターで原型を製作し、最終的に樹脂で成型。
製造: 本機の材料や加工に必要な部品・材料を求め、発注する。
加工: 機体・ロケットの成形(3Dプリンター/切削機)に協力し、必要に応じて加工する。
試験: 重心試験、再発射試験

制御班
目的: センサー測定、計測装置の選定・設置・調整(高度・速度・高度)の決定、データ取得・解析。
プログラム: センサーデータの取得・処理、ロケット全体の制御動作・時間・高度・バースト制御のためのプログラム。
高校生向けにキットも販売しています！
本キットとは、卒業後の教育を目的とした、空がサイズの小形の軽便人工衛星のこと。

5

岐阜大学フォーミュラレーシング (GFR) 活動紹介

フォーミュラレーシングサークル

GFRとは

GFRは全日本学生フォーミュラ大会に参加し、目標を達成するために毎日朝から晩まで活動しています！！今年で創設12年目に入りました！！現在の部員数は30名ほどです！！！！

学生フォーミュラとは

全日本学生フォーミュラとは、学生が自ら構想・設計・製作した小型競技車両により、自動車産業を盛り上げる事を目的に、2003年から開催されているものづくりの総合力を競う大会です！！！！！！

2016年9月の大会で14回目の開催を迎え、国内外の大学から106チームがエントリーしました！！！！

競技は
車両設計手法、設計実現性、車両理解を評価されるデザイン審査
コスト算出能力、コストを抑えた車両開発を評価されるコスト審査
車両販売戦略、市場分析能力を評価されるプレゼンテーション審査
加速性能審査、旋回性能審査、耐久性能審査で構成されます！！！！

当然、ルール(レギュレーション)に沿った車両か、安全が十分に確保された車両か(燃えたり、壊れたりしないよう)、車検が実施されます(通過率40/106チーム程)！！！！

GFRは様々な企業様にスポンサードしていただくことで、車両の開発を行っています！！！！！！！！



6

ロボコンサークル

目的

・私たちロボコンサークルはNHK学生ロボコン出場を目標に日々活動しています。

年間スケジュール

4月～6月
新入生歓迎イベント
部内で簡単な大会をやったり新入生向けの体験入部を行っています！
右の写真は2015年の1年生が初めて作った機体です！！

6月～9月
とうロボ(東海地区交流ロボコン)
1年間の大きなイベントの1つです！1年2年がそれぞれ1台ずつロボットを作ります。
ときには楽しく、ときには真剣にモノづくりをしています！

9月～10月
岐阜大祭への参加・新規技術の開発
岐阜大祭では屋内展示とクレープ販売をやっています！よかったです！来ててください！
また、この時期はNHKに使える新しい技術などを開発しています。

10月～4月
NHK学生ロボコン
いよいよ目標のNHKです！！1次、2次のビデオ審査を抜けると東京の本選に進むことができます。
毎年一筋ある変わったルールが発表され悪戦苦闘しつつも頑張っています！！



サークルのホームページです。よかったですらってください
<http://www2.gifu-u.ac.jp/~grobob/>



7

編集・発行
平成 29 年 3 月発行
岐阜大学地域協学センター
岐阜市柳戸1番1